琉球大学学術リポジトリ

台湾の農業事情 (下の3)完

メタデータ	言語:
	出版者: 琉球大学農家政学部
	公開日: 2011-06-24
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 新垣, 真保, Arakaki, Shinpo
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/20713

台湾の農業事情 （下の3）完

4．台湾の山地農業（高冷地農業）

既述した如く台湾には東部を縦走する3千米以上（最高峰玉山 3,950米）の高い山脈がある。それらの高地は標高の増す毎に気温が低くなり夏でさえ霜をむすぶ地域は広い。冬期には 1,000米以上の土地が結霜するそうだ。阿里山地域は盛夏に於ても朝夕結霜してとても寒い。高砂族は山地に住んでいるが日本時代から之を保護していた。現在も台湾政府が保護している。彼等を指導し山地農業を営ませ生計を楽にさせている。山地農業の全部を高砂族がやる訳ではないが、阿里山地区ではリンゴ、ナシ、ブドウ等の冷温帯果樹がよくできる。それらは 1,500米以上の土地でよく生育するそうだ。又薬用植物の当帰（タウキ）、人蔘其他も作られているとのことだった。それから台北市に近い陽明山（昔の草山）地域では高冷地を利用して夏季に於ても蔬菜作りが盛んである。種子馬鈴薯は日本から取寄せているがヴイルスが多いので今後は之等高冷地で生産するというていた。現在は左程ではないにしても台湾に於ける高冷地農業の今後の発展には色々な意味で大きな期待がかけられる。

5．作付様式

台湾に於ける稲作中心地帯の作付様式を述べると、水稲は沖縄と同じく年二回作られるが、土地の利用度を高めるために糊仔栽培というて水稲両期作の刈取前に既に他の作物が植付けられる仕組になっている。稲の収穫を待って植付けては次の田植までにその作物が収穫できないから稲の立毛中に植付ける訳だ。即ち2月田植し6月収穫する第1期作稲田には稲の収穫前に黄麻（4月中～8月上）、水瓜、甜瓜、胡瓜（5月下～8月上）、枝豆（6月上～7月下）、白菜（6～7月）、レンゲ（6～7月上）等が栽培されるし、8月田植で10月収穫の第2期作田には稲の立毛中にタバコ（9月中～2月上）、トウモロコシ（10月中～2月上）、蔬菜類、枝豆（10月中～2月中）、甘藷（10月中～2月下）、油菜、亜麻（10月中～3月上）、小麦、大麦（10月下～2月下）等が植付けられるので目の廻る忙しさだ。即ち同一の土地を活用して一年間に稲2回と前述の如き夏畑作物1回、冬畑作物1回計年4回とれる仕組、4毛作を実施して耕地の最高度の活用をしていることに頭が下ったが、農改所に於いて年5作の研究をしていたのには驚く外なかった。斯様な訳で台湾では早生系が重んぜられることが分る。大豆に就いて見れば2月に播種するのは成熟させて収穫するが上記の如く水田裏作では成熟まで待てないので枝豆として使用している。多毛作で土地を酷使するので地力の維持ということが考えられるが現在のところ弊害はないようだ。斯様に多毛作をなし耕地を最高度に利用し得るのも台湾の水利が実に行きとどいて一つの耕地を水田にも何時でも転換でき、欲する時、欲するだけの水量が自由に得られるからである。農業に於いて

第7表　台湾の輸入品組成

類別 年時	金額（US $1,000） 合計	資本材 建設資材	農工生産品 生の原料	消費物資	百分率（%） 合計	資本材 建設資材	農工生産品 生の原料	消費物資
1951	143,815	21,504	71,964	50,347	100.0	14.95	50.04	35.01
1955	190,065	40,606	102,137	47,322	100.0	21.36	53.74	24.90
1958	232,785	69,073	114,968	48,744	100.0	29.67	49.39	20.94
1960	252,216	70,209	120,193	61,814	100.0	27.84	47.65	24.51
1961	323,574	96,969	152,488	74,117	100.0	29.97	47.13	22.90

註：輸入資材の中には米国援助、銀行為替清算等が含まれている。
出所：台湾統計資料書、1962.

水利の問題が如何に不可欠であり且つ最も優先さるべきだということは台湾の農業が如実に之を示している。

6．台湾に於ける農業と工業

台湾は戦前から有名な農業国で砂糖、米、パイナップル、烏龍茶（又は包種茶）、バナナの特産地として名が高く、戦後18年を経た今日でも農業国にふさわしく第5表と第6表に見る如く全輸出品中に占める農産物関係の金額は58%を占め農産物加工以外の工業品が40%を占めている。而して戦前の輸出品といえば殆んど農産物関係であり、終戦後も初期に於ては90%以上が農産物か又はその製品であつた。終戦に伴い独立後の台湾は国造りとして農業を基盤に工業化を推進して来た。食糧との関係で砂糖の生産は戦前の7割程度に落ちて来たが他の農産関係の工業は精製油関係1万2千倍、綿糸織物関係9千と1万1千倍、製粉（小麦）2千倍とその躍進は驚異的である（第4表）。農産工業も斯く盛んであるがそれ以外の工業即ち金属、機械類、化学薬品、肥料等の工業が戦後特に最近大発展を遂げつつあることが分る（第6表）。台湾は逐年工業化されつつあることを示している。従つて農業関係の生産高は毎年増加の一途を辿つてはいるが、他に工業の躍進がすごいので、全体に占める割合は年々減つていることが分る。第7表で台湾の輸入品の組成を見ても分るように輸入品の77%は建設のため必要な機械や工業原料であり、明日の発展を示す資本材である。輸入品中純然たる消費物資は23%に過ぎない。

7．むすび

米国は1951年以降、台湾に対して莫大な金額に上る援助を毎年続けている。即ち1962年5月末迄に防衛援助、経済開発、技術援助等に投入された金額は合計すると実に11億5千5百20万弗の巨額である。その内69%の約8億弗が防衛費で、残りの約3億6千万弗が経済開発と技術援助の金額である。以上の外に地方流通資金として約4億3千万弗が貸し出されている。念の為1951年以降1961年12月末迄に技術援助関係者の人員数を述べると次の通りである。

総計 2,129 名

内訳	農業	工業	運輸	公衆衛生	教育	公管理共	社会発展	陸軍人員	会社一般
人員	565	460	136	192	381	181	10	48	156

これら莫大な援助のお蔭で農業、工業、運輸、保健衛生、教育、信用、社会管理等に飛躍的発展をなし遂げた。台湾の存立は勿論、今日に於ける各部面の目覚ましい発展は米国の援助のお蔭であり、又台湾官民の一方ならぬ努力の結果である。

台湾は自然条件に恵まれている。即ち広い沃野、熱帯から温寒帯にまで亘る気象、台風圏内にありながら東部の高い山脈のために心臓部の西部地方には殆んど台風被害がないこと、水源に恵まれ水利用開発が進み用水が豊富なこと等実に羨ましい。農業を初め凡ての産業は自然の環境条件に人間の努力が加わって始めて発展するものであるが、台湾に於てはそれ程までに水に恵まれた状態に見えたけれども、用水が尚不足だというて、巨費を投じて、ダム建設と地下水開発が強力に推進されつつあつた。水を治むる者よく天下を治むとは中国古聖の教えであるが蓋し至言。水利に恵まれない琉球に於ては、文化と産業の基盤としての水利開発のため、台湾の水利開発、特に地下水の開発利用を学ぶ必要がある。

生産向上のための官民の努力、即ち教育、研究、普及等の設備の整備、又各種の実行組合等実によく運営されていた。特に空地を残さぬ農民の勤勉さには頭が下つた。要するに自然条件の良い台湾の開発に当つては日本統治時代から、各部面の権威者を揃えて努力を傾注し、相当の成果を上げてきたが、戦後も亦米国の援助と台湾の人の力とによつて建設が逞しく続けられている。宝の島台湾の将来は実に洋々たるものがあろう。

文末ながら、米国アジア財団並びに旅行の便宜を供与して下さつた各位に深謝申上げる。(完)（**新垣真保**）